

EUSI メールマガジン Vol. 094

「英国の EU 国民投票と歴史家たち」(木畑洋一)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 076】

「英国の EU 国民投票と歴史家たち」

木畑洋一 (成城大学法学部教授・東京大学名誉教授)

EUへの残留かEUからの離脱かをめぐる英国の国民投票が目前に迫ってきた。世論調査の結果では両派が伯仲しているが、英国人の好きな賭けでは、残留側が優勢になっているようである。激しさを増している両派のキャンペーンで中心となっているのは、何といても将来のイギリス経済がどうなるかという問題であるが、5月末には、25日付の『ガーディアン』紙に掲載された307人の歴史家の連名による「EU離脱論者(Brexiteers)への歴史からの教訓」という投書が話題となった。

サイモン・シャーマやニール・ファーガソンといったメディアへの露出度が高くて高い面々をはじめ、著名な歴史家を多く含む投書者たちは、「私たちは、英国史とヨーロッパ史の歴史家として、英国がヨーロッパでかけがえのない役割を過去に演じてきたこと、将来も演じるであろうことを信じる。」と、残留に賛成するよう国民に呼びかけた。英国とEUとの間の関係についての議論が、英国と大陸ヨーロッパとの長期的関係をめぐる歴史認識と密接に結びついていることを、この投書は改めて想起させたのである。

ヨーロッパ統合への英国の関与の是非を、歴史を遡って論じようとする試みは、これまでもさまざまな形で行われてきた。古い例を一つだけ挙げておこう。英国がECに加盟して統合ヨーロッパの一員となったのは1973年であったが、加盟が決定した72年に出版されて評判となったポール・ジョンソン(日本でも知られたジャーナリスト)の『沖合の島人たち』という本は、ローマ帝国時代以降の歴史を通して存在してきた独立派とヨーロッパ派ともいべき二つの潮流の間の抗争で、ほとんどの時期に優勢を保ってきたのは英国を大陸ヨーロッパとは異なる存在と見る独立派であったと論じ、その精神を引き継いでECには加盟すべきでないと説いたのである。

今回の国民投票をめぐる歴史家たちの論戦は昨2015年から加熱してきたようにみえる。EU離脱に賛成する歴史家たち・・・

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol76.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. 第9回一橋EU法研究会

日時: 2016 年 6 月 25 日(土) 14:00-17:00
場所: 一橋大学 (国立)東キャンパス マーキュリータワー5 階 EUSI 会議室

原田大樹 (京都大学・行政法)
「政策実現課程のグローバル化と EU 法の意義」

木村ひとみ (大妻女子大学・環境法)
「COP21(パリ)前後における 2020 年以降の EU 気候変動法政策の形成と実施」
<https://sites.google.com/site/eulaw1284/research/2015718>

参加: 参加をご希望の方は、一橋 EU 法研究会にご入会下さい (以下 HP 参照)
主催: 一橋 EU 法研究会
<https://sites.google.com/site/eulaw1284/research>

2. 駐日 EU 代表部より「欧州留学フェア 2016」のご案内が届いています 今週末、京都と東京で「欧州留学フェア 2016」が開催されています。

京都会場

日時: 2016 年 6 月 11 日(土) 12:00-18:00

場所: キャンパスプラザ京都

東京会場

日時: 2016 年 6 月 12 日(日) 13:30-19:00

場所: 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン 2F・グローバルフロント 1F

参加: 無料・事前登録不要 (ただし事前登録された場合は全員に EU グッズを贈呈)
主催: 駐日 EU 代表部、欧州委員会教育・文化総局
共催: Campus France、仏大使館、DAAD、明大、京都市、大学コンソーシアム京都

「欧州留学フェア」では、欧州 17 カ国の大学・高等教育文化機関・大使館が合計 58 ものブースを出展し、欧州が提供する様々な留学・高等教育プログラムを紹介します。また各ブースでの説明や紹介のみならず、欧州留学の奨学金に関するセミナーや欧州留学経験者によるパネルディスカッションが開催されます。

「欧州留学フェア」2016 公式 HP:

<http://www.ehef-japan.org/>

2014 年度「欧州留学フェア」の様子:

<http://www.euinjapan.jp/media/news/news2014/20140523/160643/>

2013 年度「欧州留学フェア」の様子:

<http://www.euinjapan.jp/media/news/news2013/20130522/143522/>

3. 駐日 EU 代表部より「EU フィルムフェスティバル 2016」のご案内が届いています

EU 各国の話題作を上映する映画祭「EU フィルムフェスティバル」が今年も開催されます。今年で第 14 回目を迎えた本映画祭には、過去最多の 26 カ国が参加し、日本初公開 12 作品や主要な国際映画祭の受賞・ノミネート作品を含む計 31 プログラムもの個性豊かな作品が、大変手頃な料金で鑑賞できます。会期中にはゲストを招いてのトークイベントや講演も予定されています。ぜひ足を運んでみませんか。

東京会場

日時: 2016 年 6 月 18 日(土)-7 月 10 日(日)

場所: 東京国立近代美術館フィルムセンター
一般: 520 円、高校・大学・シニア: 310 円、小中学生: 100 円、障がい者: 無料

京都会場

日時: 2016 年 6 月 25 日(土)-7 月 15 日(金)
場所: 京都府京都文化博物館
一般: 500 円、大学生: 400 円、高校生以下: 無料

EU フィルムデーズ 2016 公式 HP:
<http://eufilmdays.jp/>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

田中俊郎 (EUSI 理事、慶應義塾大学名誉教授、ジャン・モネ・チェア)
「EU とアジア 相互にとっての意味」
『日本 EU 学会年報』第 36 号(2016 年 6 月 3 日刊行)
<http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641499034>

小川英治 (EUSI 顧問、一橋大学大学院商学研究科教授)
『サピエンティア 国際金融』(岡野衛士との共著)
(東洋経済新報社、2016 年 4 月 22 日刊行)
<https://store.toyokeizai.net/books/9784492654774/>

小串聡彦 (EUSI 研究員)
「ネットフリックス等に保護政策で立ち向かう EU」
('ブリュッセルの政治動向分析'、2016 年 5 月 27 日)
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/05/27/>

「英国国民は国民投票で経済問題と主権問題のどちらを重視するのか？」
('ブリュッセルの政治動向分析'、2016 年 6 月 6 日)
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/06/06/>

「なぜ英国は EU 離脱に向かっているのか？」
('ブリュッセルの政治動向分析'、2016 年 6 月 9 日)
<https://toshihiko-ogushi.com/2016/06/09/>

【EU に関する新刊紹介】

福田耕治編著『EU の連帯とリスクガバナンス』(成文堂、2016 年 5 月 20 日刊行)
<http://www.seibundoh.co.jp/pub/search/030114.html>

本書の編著者である福田耕治先生より、本書のご紹介を頂きました。

EU は、ユーロ危機、難民・移民危機、テロの脅威など多様かつ深刻なリスクに直面している。

「不戦共同体」の構築、自由、人権、寛容、デモクラシーなどの高邁な理念のもとに進められてきた EU 統合が、いま、なぜ頓挫しつつあるのか。欧州社会は引き裂かれ、欧州統合懐疑派の伸張、EU 脱退論も噴出し、社会連帯やデモクラシーが危機的な状況を呈しているのは、なぜであろうか。EU の最大の特徴である「国境を越えるヒト、モノ、資本、サービスの域内自由移動」が、経済格差の拡大や貧困、労働市場の分断と社会的排除の深刻化など、

政治・経済や安全・秩序にかかわる複合的なリスクを生み出した背景には何があるのか。

本書は、EU 崩壊の危機が懸念されるなかで、こうした EU・欧州統合の喫緊の課題を、連帯という視点から、その概念と理論を提示し、EU 研究歴の長い寄稿者たちが各章で専門別の実証的に諸政策を捉え直し、解決策を模索しようとする共同研究の成果の一部である。その構成(主要目次)は、下記の通りである。

- 第 1 章 EU/欧州諸国の連帯とリスクガバナンス (福田耕治・政博・日本 EU 学会理事)
- 第 2 章 EU/欧州福祉レジームにおける連帯と社会的包摂 (福田耕治)
- 第 3 章 ユーロ危機とヨーロッパ経済の動向 (阿部望・経博)
- 第 4 章 政策レジームと社会的連合 (眞柄秀子・政博)
- 第 5 章 EU 脱退の法的諸問題 (中村民雄・法博・日本 EU 学会理事)
- 第 6 章 パリ・ブリュッセルテロ事件に見る西欧先進社会の危機と EU 共通テロ政策 (渡邊啓貴・日本 EU 学会理事)
- 第 7 章 シェンゲンのリスクと EU の連帯 (土谷岳史)
- 第 8 章 EU の医療保障と連帯 (福田八寿絵・医博)
- 第 9 章 競争政策における EU の連帯 (吉沢晃・政博)
- 第 10 章 EU エネルギー政策とウクライナ・ロシア問題 (蓮見雄・日本 EU 学会理事)
- 第 11 章 EU 加盟諸国の合意形成に向けた協調行動 (武田健・政博)

本書は、EU が経済・金融危機、地域間の不均衡、産業間や企業間、賃金・資産格差に対する不満が蔓延するなかで欧州の連帯を確保する中核となり、今後もリスクガバナンスの主体であり続けることができるのか、という根源的な問題を分析する。

J.ドローール委員長の「域内市場統合」以降、新自由主義的な方向へと舵を切った EU 統合の現実と課題を、わが国への示唆をも念頭におきつつ考察したものである。

福田耕治 (早稲田大学政治経済学術院教授・日本 EU 学会理事長)

【EU に関するニュース】

- 2016 年 5 月 16 日 モグリニ上級代表、リビア支援国外相級会合参加。リビア統一政府の武器入手支援協議
- 2016 年 5 月 16-17 日 第 36 回日・EU 議員会議、参議院で開催。政治経済社会・地球規模課題・関係強化等協議
- 2016 年 5 月 17 日 モグリニ上級代表、国際シリア支援グループ閣僚級会合で全当事者に交渉復帰求める
- 2016 年 5 月 17 日 モグリニ上級代表、国際反ホモフォビア・反トランスフォビアの日に LGBTI 権利尊重の声明
- 2016 年 5 月 17 日 Eurostat、3 月貿易収支はユーロ圏 19 カ国 286 億ユーロの黒字、EU28 カ国 72 億ユーロの黒字
- 2016 年 5 月 17-19 日 欧州議会国際貿易委員会(INTA)議員 8 名、EU・韓国 FTA 発効 5 年間の評価のため訪韓
- 2016 年 5 月 18 日 欧州委員会、2016 年度欧州半期の経済財政政策指針に関する各国別勧告案(CSR)発表
- 2016 年 5 月 18 日 欧州委員会、難民移送・再定住計画の第 3 次進捗報告書を採択。移送・再定住ともに不十分
- 2016 年 5 月 18 日 第 3 回 EU・中央アジアハイレベル政治安全保障対話、テロ対策・国境管理・移民など協議
- 2016 年 5 月 18 日 欧州委員会、ポーランドの法治状況評価に対する法の支配見解案を協議。同国に改善要求
- 2016 年 5 月 18 日 EU 政治・安全保障委員会、マゴワン英准将を EU 海軍部隊アタランタ作戦司令官に任命
- 2016 年 5 月 19 日 欧州投資銀行、欧州戦略投資基金(EFSI)で新たに 8 事業承認。累計 64 事業・1000 億ユーロ超
- 2016 年 5 月 19 日 ECB、4 月理事会議事要旨公開。ECB 金融政策の批判に対する信頼性回復やデフレ対策

- 等協議
- 2016年5月19日 欧州委員会、初の人身売買対策進捗報告書採択。2013-14年被害者15894名、性的搾取67%
- 2016年5月19日 EU理事会、北朝鮮制裁対象リストに18個人・1団体を追加。対象合計は66個人・42団体に
- 2016年5月19日 ミミツァ欧州委員(国際協力・開発担当)、女性の地位向上のために1900万ユーロ支援発表
- 2016年5月19日 EU及び米英仏独外相、イランの包括的共同作業計画の現況と制裁解除後の経済活動等協議
- 2016年5月19日 NATO外相会合、モンテネグロ NATO加盟議定書調印。全加盟国批准後に29カ国目の加盟国へ
- 2016年5月20日 モゲリーニ上級代表、ストルテンベルグ NATO事務総長とサイバーや海洋安保等の協力協議
- 2016年5月20日 ECB、3月ユーロ圏経常収支(季節調整済)は273億ユーロの黒字で、前月比81億ユーロ増
- 2016年5月20日 シンガポールで死刑執行。23日、EU報道官、同国政府に死刑執行停止措置導入求める声明
- 2016年5月20-21日 モスコビシ欧州委員(経済金融・財政担当)来日、G7財務相・中央銀行総裁会議参加
- 2016年5月22日 モゲリーニ上級代表・ハーン欧州委員、ユルドゥルム新トルコ首相任命に祝意と連携声明
- 2016年5月22日 第69回カンヌ映画祭、EU助成作品「I, Daniel Blanke」(英)が最高賞(パルムドール)受賞
- 2016年5月23日 EU外務理事会、対シリア・イラク地域戦略及びISIS対策、難民問題、ソフィア作戦等協議
- 2016年5月23日 財務省貿易統計、4月対EU貿易(速報値)は、輸出7025億円・輸入6175億円で851億円の黒字
- 2016年5月23日 オーストリア大統領決選投票、親EU派のベレン氏が反EU極右ホーファー氏に僅差で勝利
- 2016年5月23-24日 世界人道サミット、トルコで開催。ゲオルギエヴァ欧州委員ら、人道支援に関する声明
- 2016年5月24日 ECB金融安定報告、市場の不安定性や過剰債務などユーロ圏金融安定のリスクの高まり指摘
- 2016年5月24日 EU、中国人権状況を懸念、拘束中の人権活動家らの解放など人権尊重と透明な運用求める
- 2016年5月24日 ユーログループ(ユーロ圏財務相会合)、ギリシャ経済改革評価、103億ユーロ追加融資承認
- 2016年5月25日 EU経済財務理事会、企業の租税回避対策や付加価値税(VAT)不正に対する行動計画等協議
- 2016年5月25日 ビルロワドガロー仏中銀総裁、強力な「欧州財務相」による財務協力機関設立必要と言及
- 2016年5月25日 モゲリーニ上級代表、楊潔チ国務委員(外交担当)と開発・国際経済・G20について電話協議
- 2016年5月25日 モゲリーニ上級代表、ウクライナ空軍サブチェンコ中尉とロシア捕虜交換解放に対し声明
- 2016年5月25-27日 UNHCR、地中海で難民船転覆事故が立て続けに3件発生し、700名超死亡のおそれと発表
- 2016年5月26日 日・EU及び英仏独伊首脳、日・EU EPA交渉加速化と本年中の大筋合意目指すとの共同声明
- 2016年5月26日 欧州委員会、EUのパートナー諸国との協力拡大に向け開発・環境等プロジェクト14件承認
- 2016年5月26日 欧州委員会、EU・トルコ合意の一環で同国の難民管理強化や教育支援に4700万ユーロ拠出
- 2016年5月26日 英財務省、EU離脱の場合、65歳以上の資産全体から1700-3000億ポンド損失との試算公表
- 2016年5月26日 英国立統計局(ONS)、1-3月企業投資はEU離脱国民投票の不透明感から前年同期比-0.4%
- 2016年5月26-27日 G7首脳会合、伊勢志摩で開催。トウスク議長・ユンカー委員長参加、首脳宣言等発表
- 2016年5月27日 EU理事会、対北朝鮮の貿易・金融・投資などの追加制裁及び対シリア制裁1年延長を採択
- 2016年5月27日 上級代表報道官、「EU軍創設計画が秘密裏に進行」との英TIMES紙同日1面記事を否定
- 2016年5月30日 欧州投資銀行(EIB)及びアジアインフラ投資銀行(AIIB)、協力枠組協定調印。融資協力へ
- 2016年5月31日 欧州委員会及びFacebookなどSNS大手4社、ヘイトスピーチ対策のための行動規範を発表

【編集後記】

EU からの離脱の是非を問う英国の国民投票が近づいてきました。今回の巻頭エッセイは、成城大学法学部の木畑洋一教授にこの問題を取り上げてご執筆いただきました。

最近では、残留派が多いとされる若者に対するキャメロン首相による懸命の説得にもかかわらず、投票の結果は予断を許さない状況のようです。もし、離脱派が勝利をすることとなれば、短期的には EU 経済だけでなく世界経済の先行きを不透明にし、特に金融・為替の領域で大きな混乱が発生する可能性を警告する向きもあります。中長期的に見れば、EU の結束が弱まり、EU の経済力が弱体化すると同時に、ウクライナ問題や対ロシアとの関係にも影響を及ぼし、欧州の政治的な安定を揺るがしかねないことにもなるでしょう。

英国は欧州統合スタート時からの原加盟国ではなく、加盟をめぐってのフランスとの軋轢もあり、加盟後も様々な領域でオプト・アウトが認められるなど、EU の中では独自の立場を貫いてきました。加盟から 40 年以上が経ち、英国経済は EU 経済と切っても切れない関係になっているとは言え、長い欧州の歴史の中での英国の立ち位置や米国との関係などを改めて見直すことが必要なのかもしれない。そうした歴史的な背景の中で、英国における国民意識というものを理解することが不可欠なように思われます。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

昨年末から今春にかけて日本でも公開された映画「消えた声が、その名を呼ぶ」(原題「The Cut」)は、100 年前の第一次世界大戦当時のオスマン帝国(トルコ)によるアルメニア人虐殺事件を描いており、2014 年ベネチア国際映画祭のコンペティション部門にもノミネートされるなど極めて高い評価を得た作品です。この映画で扱われているオスマン帝国によるアルメニア人への組織的な迫害・追放・虐殺で、100 万人から 150 万人ものアルメニア人が犠牲となったといわれ、現在でもトルコが抱える大きな歴史問題のひとつとされています。

ところで昨年より、EU 特にドイツとトルコの間で難民問題をめぐり接近が進められているなかで、6 月 2 日ドイツ連邦議会(下院)は本件を取り上げ、オスマン帝国によるアルメニア人への「ジェノサイド」(大量虐殺)と認定し、トルコとアルメニア両国間で和解に向けて取り組むよう勧告する決議を、圧倒的多数で可決しました。

なお、第一次世界大戦当時ドイツはオスマン帝国と同盟関係にあり、ドイツは同盟国であるオスマン帝国が虐殺を行っていることを知りながら止めなかったという意味で、本決議では「ドイツにも責任の一端がある」としています。冒頭の映画の邦題にある「消えた声」とは、本作品中でオスマン帝国の憲兵に喉を切られ声を失った主人公のことを表しているだけではなく、虐殺の犠牲となって歴史に埋もれた 150 万人のアルメニアの人々の声のことを表しています。トルコ国民やトルコ系の人々にとってこの問題を語ることは決して簡単なことではなく、極めてセンシティブな問題とされています。そのようななかで本作は、トルコ系ドイツ人である若き巨匠ファティ・アキン監督の手によって製作されたということも、この問題を観る上で大きな意味を持つものと思われます。ヨーロッパの持つ近接地域との歴史認識問題の難しさを、アジアにおける日本の我々もどのように乗り越えてゆくべきか、いま一度立ち止まって考えてゆくべきテーマかもしれません。

(林 大輔・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
